

GISA NEWS LETTER

地理情報システム学会ニューズレター 第73号

発行日 ● 2010年3月20日
発行 ● 地理情報システム学会事務局

目次

2010年度GISA学会賞募集	1p
学会からのお知らせ	1p
委員会報告	1p
支部報告	2p

分科会報告, 学会後援・協賛行事などのお知らせ	3p
GIS関連書籍の書評	3p
コラム	4p
学会周辺の動向, 事務局からのお知らせ	5p

【2010年度 GISA 学会賞募集】

【学会賞委員会: 碓井照子】

2010年度地理情報システム学会賞の募集を行います。
応募資格者および提出物の内容, 受賞者選考・決定方法は以下のホームページでご確認ください。

<http://www.gisa-japan.org/awards/index.html>

自薦, 他薦を問わず, たくさんのご応募をお待ちしております。

選考結果は9月末日までに応募者各位にご連絡いたします。

また, 受賞者は, 本年10月23日(土)～24日(日)に京都・立命館大学にて開催される第19回研究発表大会で表彰されます。

募集部門:

- 「研究奨励部門」(本年3月末日の時点で35歳以下の者)
- 「学術論文部門」
- 「ソフトウェア部門」
- 「教育部門」
- 「著作部門」

応募期限: 2010年7月15日(木)

提出先: 地理情報システム学会事務局

【学会からのお知らせ】

■ 2010年度一般社団法人地理情報システム学会定時社員総会のご案内

社員総会で議決権を有するのは代議員の方のみですが, 他の正会員の方も出席し意見を述べていただくことができます。

日時: 2010年5月15日(土) 14:00～16:15

場所: 東京大学工学部14号館2階144教室

東京都文京区本郷7-3-1

■ 2010年度学術研究発表大会のご案内

2010年度地理情報システム学会研究発表大会は, 10月23日(土), 24日(日)の両日, 立命館大学(京都・衣笠キャンパス)にて開催されます。

発表申し込みの手続きなどの詳細は, 決まり次第, メールニュースやHPでご案内いたします。

(参考: 2009年度の発表申込)

アブストラクト提出: 2009年7月1日～7月17日必着
講演論文集用原稿提出: 2009年7月1日～8月21日必着

■ 日本地球惑星科学連合2010年大会のご案内

地理情報システム学会の加盟する日本地球惑星科学連合の大会が, 5月に開催されます。当学会が運営するセッションは以下のとおりです。

- (1) GIS(英語)
 - (2) 地理情報システム(日本語)
 - (3) 人間環境と災害リスク(地理学会等との共同開催)
- 他にも地理学, 地図学, 測量学などを対象としたGISと関連が深いセッションも開催されます。

会期: 2010年5月23日(日)～28日(金)

会場: 幕張メッセ国際会議場(千葉市美浜区中瀬2-1)

早期参加登録: 2010年4月9日(金) 23:59

URL: <http://www.jpogu.org/meeting/index.htm>

【委員会報告】

■ 企画委員会

【浅見泰司】

【分科会の新規設置・継続の申請について】

新規に設置する場合は新規申請書, 継続する場合は継続申請書を<http://www.gisa-japan.org/gisa/sig.html>からダウンロードして, 代表者の方が3月末日までに学会事務局宛にメールでご提出ください。提出締切は新規が3/31, 継続は2/28(受付終了)です。なお, 内規および分科会設置にかかわる書類書式を改めて, おおむね2年に一度活動成果・活動報告を学会誌もしくは大会発表することを義務づけられました。また, 分科会の設置期間の上限は5年です。もしも, 5年を超えて継続したいという特別な事由がある場合には, その理由を明記した審査用書類も合わせてご提出ください。

■ 編集委員会

【玉川英則】

【投稿規程等の改定について】

本年1月8日の理事会において, 『GIS-理論と応用』の投稿規程, 原稿作成要領の改定と原稿テンプレートの公開が承認され, すでに学会ホームページにアップされております。今後は, これら新規の規程に基づき投稿をお願いいたします。
<http://www.gisa-japan.org/publications/guideline.html>

特に、同規程の「審査」の項にあるとおり、「条件付き採用」または「再査読」の審査結果が出た場合、結果が著者に通知された後、6ヶ月以内に修正稿が提出されない場合は、著者がその投稿を取り下げたものと見なすことになりましたので、よろしくご了解のほどお願い申し上げます。

■ GIS 資格認定協会

【碓井照子】

2月3日に第1回GIS名誉上級技術者審査会議を開催した。学会賞委員会の推薦のもと、理事会の承認を経て、開催されたものである。GIS名誉上級技術者とは、GIS分野に長年携わり、社会的・学術的な貢献が顕著で当該分野の発展・普及に著しい功績が認められる方々に贈呈する称号である。久保審査委員長の下、GISCAから大場委員(市川市)、太田幹事長(国際航業)が審査委員となり、外部有識者として矢口彰氏((財)日本デジタル道路地図協会専務理事)、森田喬氏(法政大学教授)を加え、計5名による確認審査を行った。その結果、枝村俊郎、伊理正夫、野上道男、岡部篤行、高阪宏行、碓井照子、山村悦夫、村山祐司の各氏に贈呈することとなった。なお、審査委員からはGIS名誉上級技術者規定や審査基準に関する有用なご意見を頂くことができたので次回以降の審査会議に、反映させる所存である。

2010年1月時点認定件数：GIS上級技術者150名、認定教育プログラム28件



〈写真：審査委員会の様子〉

(文責：太田守重)

【支部報告】

■ 北海道支部

【橋本雄一】

「第7回北海道測量技術講演会」開催報告

2010年1月28日(木)13時より札幌第1合同庁舎講堂(札幌市北区)にて国土交通省国土地理院北海道地方測量部 および社団法人日本測量協会北海道支部の主催する「第7回北海道測量技術講演会-地理空間情報の高度活用を目指して-」が開催されました。GIS学会北海道支部は、この講演会を、国土交通省北海道開発局、北海道、札幌市、「測量の日」北海道推進協議会、北海道GIS・GPS研究会、特定非営利活動法人Digital北海道研究会とともに後援しました。講演会では、まず国土地理院長・小牧和雄氏から挨拶をいただいた後、金子正美氏(酪農学園大学環境システム学部)が「GISを活用した情報の公開と共有化」、橋本雄一(北海道大学大学院文学研究科)が「地理空間情報の高度活用社会を目指した産学官の挑戦」という題目で講演を行いました。休憩を挟んだ後、小荒井衛氏(国土地理院地理地殻活動研究センター)が「航空レーザ測量で捉えた微地形と植生三次元構造-世界自然遺産地域・知床での事例-」、田中大和氏(国土地理院地理空間情報部)が「国土地理院にお

ける基盤地図情報の整備」という題目でお話しいただきました。支部では、今後も地理空間情報の活用推進に関する講演会・セミナーの開催や講演を続けてまいりますので、会員の皆様のご支援をお願い申し上げます。

■ 関西支部

【吉川 眞】

前号では案内となっていた活動の実施結果を報告します。関西組織が開始されて以来、継続して開催に取り組んできました「関西地域GIS自治体意見交流会」の報告です。

今年度で第10回を迎えることになり、日本写真測量学会関西支部との共催で平成21年11月24日(火)に常翔学園・大阪センターにおいて記念大会として開催しました。総勢102名の参加者を数えています。その内訳は、産36名、官46名、学20名となっていました。自治体交流会では、毎回、自治体GISの関係者数人に講演いただいたうえで、講師をパネラにパネルディスカッションを行うスタイルが確立しています。今回も『自治体GISの再考、再構、再興』と銘打ち、5名の講師による講演とパネルディスカッションにより、幅広く情報交換を行いました。



第10回の記念大会に因み開会挨拶に含めて過去の交流会を初回から順に振り返りました。また講演では、まず大阪産業大学の吉川耕司先生の『自治体GISが定着・継続するための要件とは?』と題する基調講演ののち、奈良県橿原市の西峯光明、大阪府高槻市の木下克己、大阪府豊中市の小松太郎のお三方から各市におけるGISの現状と課題、ならびに今後の展望について報告いただきました。さらに、大阪府都市整備部の藤井明さんからは、GIS大縮尺空間データ官民共有化推進協議会(官民協)の「これまで」と「これから」について報告いただいています。講師の皆さんが熱の入った講演をされたためにパネルディスカッションの時間が短くなりましたが、コーディネータをお務めいただいた日本写真測量学会関西支部長の柳川重信さんの見事な采配で短いながらも有意義な議論が展開されました。交流会終了後、会場を大阪センターに併設されているラウンジに移した懇親会にも、参加者の丁度半数である51名の方々が残られ、講師を囲んで活発な交流が遅くまで続きました。

さて、自治体交流会など関西支部が主催します集まりで、以前からGIS上級技術者の方々より資格を継続するために必



GISA-NL No.73 (2010/3/20)

要なポイント、とくに教育達成度ポイントの獲得に関する問題を伺っておりました。端的には、さまざまな教育プログラムが恒常的に開催されている関東(東京)では問題は少ないが、関西など他の地域ではポイント獲得のハードルが高いというものでした。そこで、関西に住む GIS 上級技術者有志の方々と検討した結果、関西支部が主体となり、GIS 上級技術者が実務面を支援する形で継続教育の仕組みを構築する、とくに具体的な内容の検討と企画、ならびに実施は、大阪工業大学の田中一成先生を中心とした実行委員会を関西支部に組織して担当するということが決定されています。GIS 上級技術者の皆様には、学会正会員としてのご貢献を期待申し上げるとともに、とくに関西在住の方々にはこの企画への絶大な支援をお願いする次第です。なお、この新しい企画とも連動して、長らく関西支部の懸案でした支部のホームページも近々アップする方向で、同じく田中一成先生のもとで鋭意構築中です。

■ 中国支部

【岩井 哲】

2009年度は、計3回の催しを開きました。6月20日(土)に「GIS セミナー・中国」第12回として、三好孝治氏(広島工業大学環境学部)に『江戸期の絵図で歩く古い町並み』に関する取り組みをご講演戴きました。次いで、8月1日(土)と2日(日)に、4回目となり夏の恒例行事となってきたGISワークショップ(「GISセミナー」第13回)を開催しました。これまで、午前中はフィールドワーク、午後はGISで原爆痕跡地図を作成する室内作業と発表会「写真参照」という一日がかりの行事でしたが、今年は見学・説明会を前日午後に企画し、参加者の小・中・高・大学生らを対象として原爆とその痕跡に関わる基礎的な知識を事前に持って頂く二日間にもわたる行事に拡大しました。教育GISフォーラムが主催者に加わり、昨年同様、財団法人広島平和文化センターとの共催となりました。今回は東京からの参加者もあり、スタッフは夏のこの行事に参加する



意義を感じて年1回集うボランティアで成り立っております。12月11日(金)に「GISセミナー」第14回を開催し、国土交通省国土地理院から中国地方測量部の岡庭直久氏、中田昌吾氏、内山裕一氏の3名にお越し頂き、『地理空間情報活用推進基本法等に関して』の話題提供をいただきました。いずれも会場は広島市内、参加者はせいぜい10名程度で、こじんまりとしておりますが、確実にGISの絆が広がりつつあると実感しております。

【分科会報告】

■ ビジネス分科会

【高阪宏行】

GIS 技術認定協会教育認定講座「ビジネス GIS コーディネータ研修講座」は2001年9月より開始し、現在までの13年間で43回を開催し、受講者は全国で延べ約1200人に達しています。本年度は第41回講座(2009年12月17日:東京:参加者28名)、第42回講座(2010年1月19日:東京:参加者32名)、また、本年もにいがた GIS 協議会の恒例行事として、第43回

GISA-NL No.73 (2010/3/20)

講座(2010年2月25日:新潟:参加者21名)の開催を後援頂きました。

なお、来期計画では4月に福岡で、また9月には東京で開催の予定をしております。(詳細はビジネス分科会 HP にて)

(文責:平下治)

■ セキュリティ分科会

【川添博史】

今年は、総務省・国土交通省・国土地理院からも講演者を招聘し、現実に地理空間情報を利活用する場合の有用性や留意点などについての講演会を開催します。また、地域社会が安心して地理空間情報を利活用でき、実体経済にも反映させられるように、セキュリティと有用性を両立させるという視点からの検討を当分科会では進めていきたい。

今期より、関西地域の代議員2名(大阪市職員内布氏、富田林市職員浅野氏)が当分科会のボードメンバーに参加することとなり、自治体の空間情報活用をはじめ、より一層具体的な考察と議論ができることと期待しています。

地理空間情報特有のセキュリティ関連検討事項 例

1. 地理空間情報の著作権
2. 地理空間情報を作成する際の情報源
 - ・コミュニティ内で追記されたデータの扱い。
3. 地理空間情報に記載された個人や企業のプライバシー
4. 地理空間情報内の個別データへのアクセス権
5. 地理空間情報を過剰に信頼することによる利用者の損害の軽減(時間及び位置など正確度)
 - ・病院があると思って急病人を連れて行ったが、実際にはなかった。
 - ・地理空間情報の品質と利用者の要求品質のギャップ。
6. 地理空間情報が及ぼす社会影響
 - ・土壌汚染や事件多発地帯の公表で地価が下がり、都市計画の公表で地価が上がる。
 - ・特に自治体の地理空間情報は目的外利用を制限されることが多いが、目的外に利用することで社会貢献できることは多い。
7. 地理空間情報の有用性の検討
 - ・タイムリー情報、リアリティ情報、情報の整備、情報の共有、情報セキュリティに係る関連の検討。

【学会後援・協賛行事などのお知らせ】

■ 後援 ■ 第6回 GIS コミュニティフォーラム

主催: ESRI ジャパンユーザ会

会期: 2010年6月3日(木)~4日(金)

会場: 東京ミッドタウン

詳しくは… <http://www.esri.jp/community/gcf/2010/>

【GIS 関連書籍の書評】

■ 「土地利用変化のメカニズム-土地所有と GIS からの分析-」 堤純著, 古今書院, 2009年, 5400円

【徳島大学 田中耕市】

つい先日まで農地であったはずの場所にいつの間にかスーパーが建設されたり、閉鎖されていた工場跡地に突如として高層マンションが建設されたりと、このような土地利用の変化は私たちが日常的に見かける光景である。しかし、土地利

用は種々の要因が寄与した結果として地表面に現れるものであるため、その変化の要因やメカニズムを解明することは容易ではない。本書は、そのような土地利用変化のメカニズムを、GIS を援用して新たな視点を取り入れつつ解明せんとする意欲作である。なかでも、最大の特長は、従来はブラックボックスとして扱われがちであった土地利用の変化・持続の要因を、エージェント（土地利用変化に直接的・間接的に影響を与える個人や法人）の意思決定から紐解くという挑戦にある。



本書の構成は、はじめに土地利用変化のメカニズムの解明には人間の意思決定に注目する必要性があることを論じて（第 1 章）、土地利用変化に関する実証研究を積み重ねた後に（第 2 章～第 8 章）、GIS の普及に伴って変化する土地利用研究を展望（第 9 章）する全 9 章から成っている。実証研究部分では、土地利用変化に寄与する要因をいくつか取り上げながら、それらと土地利用の変化との関係性を、各章において考察している。第 2 章では歴史的・文化的背景、第 3 章では自然的条件に注目して、そのような場所の条件が土地利用変化に与える影響を論じた。第 4 章と第 5 章では、土地所有に着目して土地売買およびそれに伴う土地利用変化を検証したうえで、第 6 章と第 7 章ではエージェントの意思決定にまで踏み込み、土地利用変化との関係性を検証している。そして、これらの成果の積み重ねをもとに、農村が都市化していく過程における土地利用変化の特性とエージェントの実体やその役割との関係について第 8 章で論じている。最後の第 9 章では、GIS の急速な普及によって変化している土地利用研究の動向と課題、そして未来の可能性について言及している。特に、ミクロスケールとマクロスケールの研究を結ぶために、GIS が有効であることが訴えられている。

本書は従来の研究と一線を画して、土地利用変化のメカニズムを解明するためにエージェントの役割という新たな視角を切り拓いた点で大いに評価できる。一読すれば分かるが、著者が膨大な時間を費やしたであろう綿密な現地調査の成果にはただ脱帽するばかりである。GIS で作成した何気ない一枚の地図にも、著者の献身的な現地調査によって得られた貴重なオリジナルデータが凝縮されている。本書の魅力の一つは、メッシュ統計や空中写真などの既存の空間データや統計を利用するにとどまらず、著者自身の現地調査によって収集されたオリジナルデータを併用している点にある。現地調査とひとことにいっても、調査対象地域を隈無く歩くことによる土地利用情報の収集のみならず、その土地の所有者や土地を管理する不動産業者、さらには土地利用の転換に深く寄与した金融機関や行政に対する聞き取り調査を著者は敢行している。これらの蓄積こそが、従来はアンタッチャブルとされてきたエージェントの役割を解明する原動力となったといえる。都市化が進展するメカニズムを事細かに解明している本書は、土地利用のみならず都市・農村問題に関心を有する方々には必読である。また、方法論的な視点からも、現地調査の成果を GIS で活かしたいと考える方々に、ぜひ一読を勧めたい良書である。

【コラム】

■バイオリージョンと地理空間情報活用推進基本法 [バイオリージョン SIG 代表 田中和博(京都府立大学)]

バイオリージョン(bioregion)とは、気候、地質、地形、流域、野生生物など、自然の特徴によって一つのまとまりを持っていると認められる地域生命圏のことであり、生命地域とも訳されている。また、それらの自然環境に順応し、調和した形で営まれている生活様式や都市の機能までも含めた概念である。1970 年代にアメリカのピーター・バーグ(Peter Berg)によって提唱されたものであり、彼は「地球全体を守るためには、まず部分を守る必要がある」との認識からプラネット・ドラム財団を設立し、地域生態系の機能回復と保全を目指したバイオリージョン活動を展開している。

バイオリージョン SIG は、GIS を用いた地域生命圏の研究について情報を交換する場として 1997 年 10 月に設立され、メーリングリスト(BioGIS@affrc.go.jp)を運営している。バイオリージョン GIS の研究では、地域生命圏に関する空間分布情報のすべてが研究対象となるが、そのように考えると研究の範囲が非常に広がるので、当面は地域生態系に関する自然環境情報を研究対象にしている。最近の研究課題は、野生生物の生息分布域の解析、生物多様性の解析、地域生態系の機能評価、森林計画への応用などである。

地理空間情報活用推進基本法の第 1 条には、「現在及び将来の国民が安心して豊かな生活を営むことができる経済社会を実現する上で地理空間情報を高度に活用することを推進することが極めて重要である」と書かれているが、バイオリージョン GIS の方向性は、まさに、この条文に合致するものである。

バイオリージョン GIS 研究における自然環境データの入手方法には、大別すると、次の 4 つの型がある。すなわち、既存データ活用型、リモートセンシング型、定点自動観測型、野外調査型である。このうち、最も手間がかかり、一人ではできない研究が野外調査型の研究になる。そのために、地域生態系に関する自然環境情報の研究では、データベースの構築や研究者間の情報交換や連携・協働が必要になる。

既存データ活用型とは、国土地理院の DEM や環境省の自然環境 GIS データのように、国や地方自治体によって既に整備されているデータを活用するものであり、研究事例の大半を占めている。したがって、地理空間情報の収集、整備、公開、管理をどのように進めていくかは重要な問題であり、国及び地方公共団体の責務等を明確にする必要がある。国による必要な調査及び研究の実施（同法第 11 条）に大いに期待する。

自然環境情報の収集、整備、公開については、幾つかの難題が存在する。まず、収集については、手間がかかる野外調査をどのように進めていくか、人材の育成、非経済的価値に対するコスト負担の問題等がある。整備と公開については、希少種やプライバシーの問題がある。希少種は公開するとすぐに盗掘等の被害にあうし、人工林の情報などは個人情報に関わる問題でもあるからだ。したがって、公開するにあたっては、意識的にメッシュデータに変換して所在を曖昧にする必要もあるだろう。そのような微妙な問題を取り扱うので、やはり公的機関による情報の整備・公開・管理が必要である。バイオリージョン情報について、博物館と国土地理院の機能を併せ持ったような公的な機関が必要である。

GISA-NL No.73 (2010/3/20)

【学会周辺の動向報告】

■子どものわが町探検2009 子どものわが町探検 ～清掃活動と防犯マップづくりを通じた町づくり～ [NPO 法人 GIS 総合研究所 川添博史]

(概要)

子ども達が、自分達の町を知り、できるだけ多くの地域の人と出会うために、定期的な清掃活動を実施する。また、清掃活動をしながら、子ども達の目線に基づいて「危険なところ」や「居心地のいいところ」のマップづくりを実施する。小学校区において小学1年から6年生までの異学年集団の班編成をする。班ごとに担当エリアを決めて防犯マップを作成し、地域の人を招いた子ども達による防犯マップ発表会を開催する。そして、作成した防犯マップとそれまでの課程、成果をまとめて、冊子を作成する。

(目的)

子ども達が、地域の人に喜んでもらう清掃活動を実施する



ことで、多くの大人と出会い「地域」を身近に感じること、そして、どのようにすれば自然が守ることができるかと考えること、また、子ども達が、主体性を持って、「自分の町」を探検して防犯マップを作成することで、「危険」を回避する力を身につけることを目的とします。さらに、完成した冊子を、社会に発信することで、今回の活動を他の地域でも実施できるように推進していくことを目的とします。

(実施内容)

日 程	内 容	お手伝い場所
7月10日チラシ配布	参加者募集(小学校区)100名 桑津地区を6のエリアに分ける。 6班を編成する。 大人の引率者の募集。	小学校・PTA・青少年団体・民生委員会の協力をお願いする。 はぐくみネットに協力をお願いする。
7月20日(土)打ち合わせ	ポスターやチラシで広報する。	
8月21日(土)午後1時～2時講演会。午後2時～3時説明会。	わが町探検隊 開講式・講演会 講演会：講師 NPO 法人 GIS 総合研究所 川添博史氏	桑津会館 講演会講師1名
9月5日(土)午後1時～3時	第1回 清掃活動+防犯マップづくり	防犯マップ作成 講師2名+11名
9月19日(土)午後1時～3時	第2回 清掃活動+防犯マップづくり	防犯マップ作成 講師2名+11名
10月31日(土)午後1時～3時	第3回 防犯マップづくり	防犯マップ作成 講師2名+11名
11月7日(土)午後1時～3時	第4回 防犯マップづくり	防犯マップ作成 講師2名+11名
11月21日(土)	第5回 防犯マップ	防犯マップ作成

午後1時～3時	づくり	講師2名+11名
12月5日(土)午後1時～3時	第6回 防犯マップづくり	防犯マップ作成 講師2名+11名
平成22年1月10日(日)	発表のリハーサル	防犯マップ作成 講師2名+11名
1月16日(土)午後1時～3時	防犯マップ発表会	桑津会館 保護者・地域の人・関係者

①6班にわかれて、桑津地区を歩きながら、清掃活動と防犯マップづくりを実施する。

②協力者は、11名。

③子ども達が作成した防犯マップは、「桑津地区防犯マップ事例集2009」として作成する。

④清掃活動を実施するので、「ゴミの分別」や「自然を守ること」についても学習する。

⑤ハートフレンドのジュニア・リーダーは全員参加

主催：特定非営利活動法人ハートフレンド

共催：桑津小学校はぐくみネット 桑津小学校PTA

後援：東住吉区役所

協力：(財)大阪都市工学情報センター

講師指導：GIS 総研 川添

【事務局からのお知らせ】

■変更届提出のお願い

春は異動の季節です。

就職した、転職した、所属や自宅の場所が変わった等々の場合、速やかに事務局に変更届をご提出ください。学会誌がこれまで届けられていた所属(自宅)宛でなく、急に自宅(所属)宛に届いた、という場合は、宛先人不明で一度、事務局に返送されてきたものの再送です。

オンラインで変更が出来ますので、「会費を支払ったにもかかわらず郵送物届かない」という事態を招く前に、是非、事務局までご連絡ください。

<http://www.gisa-japan.org/member/index.html>

(変更はHPの「入会お申込み」から、どうぞ)

■2010年度年会費納入のお願い

今号は郵便振込ご利用の会員の方々に、来年度分(2010年4月1日～2011年3月31日)年会費の振込専用用紙を同封しております。

納入期限は4月30日(金)ですので、お早めにお手続きください。期限に遅れますと、6月発行のニューズレター74号および『GIS-理論と応用Vol.18-No.1』の送付が停止されるほか、現在、ホームページ上で計画が進んでおります会員専用コンテンツの閲覧が出来ない可能性があります。

■年会費口座振替ご利用の方へのお願い

来年度分(2010年4月1日～2011年3月31日)年会費の**口座引き落とし日は6月28日(月)**です。口座残高のご確認をお願いいたします。

年会費は正会員7,000円、学生会員3,000円です。

学会分科会(SIG)連絡先一覧		
●自治体：大場 亨(市川市企画部 Tel 047-334-1111 内線2304) E-mail：BZH06512@nifty.ne.jp ●空間IT：有川正俊（東京大学空間情報科学研究センター Tel 04-7136-4291） E-mail：arikawa@csis.u-tokyo.ac.jp ●ビジネス：高阪宏行（日本大学 Tel 03-3304-2051） E-mail：kohsaka@chs.nihon-u.ac.jp ●防災GIS：畑山満則（京都大学防災研究所 Tel 0774-38-4333） E-mail：hatayama@imdr.dpri.kyoto-u.ac.jp ●モバイル・バーチャルGIS：東明佐久良（大妻女子大学 Tel 042-339-0052） E-mail：shinoaki@otsuma.ac.jp ●パイオリージョン：田中和博（京都府立大学 Tel 075-703-5629） E-mail：tanakazu@kpu.ac.jp ●土地利用・地価GIS：碓井照子（奈良大学） 事務局：西端憲治（㈱セイコー Tel 0721-25-2728） E-mail：totiriyo-sig@seicom.jp		●時空間GIS：吉川耕司（大阪産業大学 Tel 072-875-3001） E-mail：yoshikaw@due.osaka-sandai.ac.jp ●登記GIS：神前泰幸（大阪府土地家屋調査士会 Tel 0724-32-0443） E-mail：hk2000@dream.com 事務局：上田浩（㈱プロジェクト・パル Tel 072-367-4196） E-mail：propal@m4.kcn.ne.jp ●地図・空間表現：森田 喬（法政大学 Tel 0423-87-6270） E-mail：morita@k.hosei.ac.jp ●セキュリティSIG：川添博史（特定非営利活動法人GIS総合研究所） 事務局：国司輝夫（特定非営利活動法人GIS総合研究所Tel 06-6464-7077） E-mail：info@gissoken.org ●自律分散アーキテクチャ：藤田晴啓（東洋大学 Tel 0276-82-9157） E-mail：fujita-hi@toyonet.toyo.ac.jp ●空間的思考研究会：今井 修 （東京大学空間情報科学研究センター Tel 04-7136-4297） E-mail：oimai@csis.u-tokyo.ac.jp
2010 年 2 月末現在の個人会員 1,336 名， 賛助会員 81 社		■ 編集後記 2 年間の任期で，ニューズレター編集を担当してまいりましたが，今号が最後になりました。 このような経験ははるか昔の小学生の時，ガリ版刷りの文集以来でしたので，全くの初心者でした。このような私が任期をまっとうできたのも，ひとえに前任の落合さん，事務局の楠木さんはじめ多くの方々から支援のおかげと感謝しております。 （文責：齊藤義雄）
地方支部の連絡先一覧		地理情報システム学会ニューズレター
2008 年度～2009 年度の地方支部は以下のとおりです。 ＜北海道支部＞ 支部長：北海道大学 橋本雄一 Tel：011-706-4019 E-mail：you@chiri.let.hokudai.ac.jp ＜東北支部＞ 支部長：岩手県立大学 阿部昭博 Tel：019-694-2562 E-mail：abe@iwate-pu.ac.jp ＜北陸支部＞ 支部長：新潟大学 牧野秀夫 Tel：025-262-6749 E-mail：makino@ie.niigata-u.ac.jp ＜中部支部＞ 支部長：名古屋大学 奥貫圭一 Tel：052-789-2233 E-mail：nuki@lit.nagoya-u.ac.jp		第 73 号 ●発行日 2010 年 3 月 20 日 ■発行 一般社団法人 地理情報システム学会事務局 〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル 4 階 TEL/FAX 03-5689-7955 E-mail: office@gisa-japan.org URL: http://www.gisa-japan.org/
＜関西支部＞ 支部長：大阪工業大学 吉川 眞 Tel：06-6954-4201 E-mail：gisa@civil.oit.ac.jp ＜中国支部＞ 支部長：広島工業大学 岩井 哲 Tel：082-921-5486 E-mail：s.iwai.i5@it-hiroshima.ac.jp ＜四国支部＞ 支部長：高知工科大学 高木方隆 Tel：0887-57-2409 Fax：0887-57-2420 E-mail：takagi.masataka@kochi-tech.ac.jp ＜九州支部＞ 支部長：鹿屋体育大学 山崎利夫 Tel：0994-46-5362 E-mail：yamazaki@nifs-k.ac.jp ＜沖縄支部＞ 支部長：琉球大学 宮城隼夫 E-mail：miyagi@ie.u-ryukyu.ac.jp 連絡先：有銘政秀（(株) ジャスミンソフト） Tel：098-921-1588 E-mail：arime@jasminesoft.co.jp		■ 弥生雑記 ■ 3 月 2 日，福井県小浜市の鵜の瀬という淵で「お水送り」という神事が行われる。東大寺の修二会にうっかり遅刻した若狭の遠敷（おにゅう）明神が，以後毎年，お供えの関伽水を送ると詫びたのがその始まりといわれるもので，鵜の瀬に注ぎ込まれた関伽水が 10 日をかけて二月堂の若狭井に達し，汲み上げた香水は「お水取り」の法会に使用される。 双方の行事とも漆黒の闇に包まれた中で，松明の灯りだけを頼りに執り行われる。夜半の寒さと燃えさかる炎は，いかにも春を呼び込むにふさわしい清冽さが感じられ，そのせいかお水取り関連の報道に接すると，「さあ，新年度」と気持ちを奮い起こしている。 （学会事務局）